

Contents

【表】

- ・ 病院長新年のご挨拶
- ・ 新型 MRI を 2 台導入

【裏】

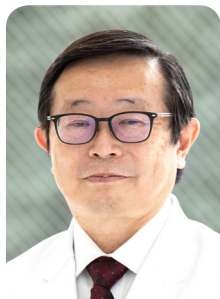
- ・ 診療科紹介
- ・ 第 8 回医療連携フォーラムご報告
- ・ 年末年始の診療記録



編集：杏林大学医学部附属病院
杏林学園広報室
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511(代表)



新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

私たち杏林大学病院は、これからも一層「地域に根差した大学病院」としての役割を果たしていくべく様々な取り組みを進めて参ります。

そのために重要な点である地域連携ですが、初診紹介予約に関しては従来の FAX、電話に加えて患者さん・医療機関からの WEB 受付を開始しております。また、救急外来の受け入れ態勢の見直しをはかり、当院で積極的入院加療が必要な患者さんをより円滑に受け入れできるようにいたします。そして、各診療科からの逆紹介を引き続き推進してまいります。

また、当院での急性期高度先進医療を提供するための体制整備は引き続き進めてまいります。ただでなく、超高齢化時代における納得できる医療が提供できるように、地域の関係者の方々と協力して ACP(Advanced Care Planning) に対する取り組みも進めてまいります。本年も皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 近藤晴彦

新型 MRI 導入でより高精度・快適な検査を実現



当院では、今年度新たに高精度な MRI 装置を 2 台導入しました。

◆「Vantage Galan 3T / Supreme Edition」(キヤノン社製)

12 月に運用が開始された本装置は、心臓部にあたるマグネットや傾斜磁場システムを国産のものとした最新の 3 テスラ MRI です。磁場の均一性が向上したことで、従来と比べて広範囲の部位を歪みのない画質で撮像することができます。さらに、AI 技術を用いたノイズ低減と超解像技術を併用することで、大幅な検査時間の短縮、より高解像度の画像取得が可能となりました。

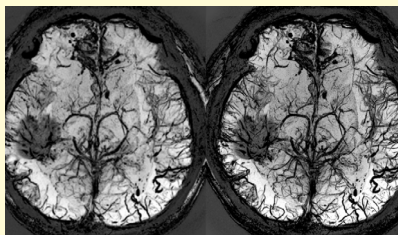
◆「Ingenia 1.5T Circular Edition」(フィリップス社製)

8 月下旬から運用が開始された本装置は、磁力 1.5 テスラの特長を活かし、高身長の方の全脊椎といった広範囲部位の撮影や広範囲の腹水症例があるなど体格の大きな方、また体内に金属性の診療材料を挿入されている患者さんなど、従来では画質の担保が難しかった症例でも、より高い解像度、高い視認性をもって撮像することが可能になりました。さらに AI 技術を駆使することで今までと同様の検査時間内で、より多くの情報を得ることが期待されます。

また、どちらの検査室も天井には開放感のある風景画が描かれており、さらに検査時には BGM が流れることで、MRI 検査特有の騒音や閉塞感を和らげ、より快適に検査を受けることができます。



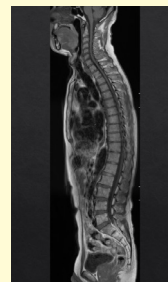
Vantage Galan 3T / Supreme Edition



AI 技術で低解像度画像を高解像度画像(右)に再構成。撮像時間はそのまま高分解能化が可能。



Ingenia 1.5T Circular Edition



全脊椎撮像。
広範囲を一度に撮像可能

診療科紹介

高齢診療科・もの忘れセンター

医学の進んだ現代においても、高齢者の疾患を治癒（投薬が不要な状態）に導くことは容易ではありません。そのような疾患を持病として多数抱え、さらにフレイルから要介護へと進みやすいのが高齢者の特徴です。

当院高齢診療科へは、そうした患者さんで、急性・慢性を問わず原因不明な症候の精査・加療が必要な方を紹介ください。当科の入院は9割近くが緊急であり、誤嚥性肺炎をはじめとする感染性疾患が多くを占めます。持病を背景とした発症が多数になるため、その原因究明と包括的対応を行うことで、状態の安定化と再入院の抑制を目指しています。

もの忘れセンターでは、単に認知症を疾患として診断、治療するだけでなく、認知機能に影響する背景を多面的に評価し、「安心して暮らし続ける」ためのサポートをしています。

昨年より、アルツハイマー病による「軽度認知障害（MCI）または軽度認知症」に対する抗体医薬治療を開始しました。抗体医薬は脳内のアミロイドβ（Aβ）プロトフィブリルおよびAβプラークを減少させることによって、アルツハイマー病の進行を抑制し、認知機能と日常生活機能の低下を遅らせることが期待できます。適応があると思われる患者さんをぜひご紹介ください。



診療科長・教授
神崎 恒一
専門分野：老年医学、認知症



第8回 杏林大学医学部付属病院 医療連携フォーラムのご報告（2024年）

当院では地域の医療従事者の皆様と「顔の見える連携」を深めるために、医療連携フォーラムを開催しています。2024年11月28日（木）に開催した第8回フォーラムには、多くの方にご参加いただき、連携をより深めることができました。ご参加いただいた皆さまに御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

患者支援センター 地域医療連携係

【内容】

第1部 講演会

①病院長挨拶 ②来賓挨拶（三鷹市医師会 内原正勝会長）③患者支援センター紹介 ④診療科講演

<診療科講演 前半>

糖尿病の診療 update（糖尿病・内分泌・代謝内科 助教 近藤 健）

TAVI/リードレスペースメーカー等、循環器最新治療（循環器内科 特任教授 佐藤俊明、助教 三浦陽平）

角膜移植って縫わないの？～最新の角膜移植～（眼科講師 福井正樹）

<診療科講演 後半>

リウマチ膠原病を疑う診察所見（腎臓・リウマチ膠原病内科 准教授 岸本暢将）

膵臓がんの早期発見のための検査方法と手術（肝胆膵外科 助教 松木亮太）

腹圧性尿失禁の手術治療（泌尿器科 講師 金城真実）

第2部 情報交換会



年末年始の診療記録

2024年12月28日昼～2025年1月4日朝まで

患者数	1123人（内3次救急28人）
救急車台数	119台（内3次救急28台）

（内訳 1・2次救急のみ）

診療科	救急総合	内科系	外科系	精神神経科	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科
患者数	484	107	18	1	130	1	13	2	33
診療科	皮膚科	形成外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	SCU	放射線治療科	合計
患者数	20	51	20	42	65	18	8	82	1095

